

資料提供

平成26年9月2日
倉敷市保健所保健課

デング熱の国内感染例（疑い例）の発生について

1 概要

平成26年9月1日に、市内の医療機関からデング熱を疑う患者の連絡があり、院内で迅速検査を実施したところ陽性となったため、発生届がありました。本日（9月2日）、国立感染症研究所へ検体を送り、確認検査を依頼しています。当該患者は1ヶ月以内の海外渡航歴はなく、都立代々木公園に立ち寄っている事が確認されています。患者は現在入院中ですが、快方に向かっています。

2 患者について

- (1) 年齢等 : 東京都在住 20歳代男性
- (2) 海外渡航歴 : なし
- (3) 患者行動 : 8月14～17日の間のいずれかの日で、都立代々木公園に立ち寄っている。
- (4) 発症・受診 : 8月24日に発熱・関節痛・下痢。
8月26日に倉敷市に帰省。
8月26日に倉敷市内の医療機関受診し、29日入院。
- (5) 症状 : 現在、快方に向かっている。
- (6) 検査・診断 : 9月1日に医療機関のスクリーニング検査で陽性判明。
国立感染症研究所で確認検査を依頼中。

3 倉敷市の対応について

医療機関・市民への注意喚起を行います。

現在、患者家族等の健康観察を実施中です。現在のところ、この患者を介しての市内での感染拡大の可能性は低いと考えられます。

デング熱について

【デング熱とは】

デングウイルスによる感染症で、蚊が媒介して感染し、ヒトからヒトへ直接感染することはありません。主に、東南アジア、南アジア、中南米などの熱帯や亜熱帯の地域で流行しており、日本国内では、海外の流行地で感染し帰国した症例が毎年 200 人前後報告されています。

媒介する蚊の種類は、日本には常在していないネツタイシマカ他、青森県以南のほとんどの地域で見られるヒトスジシマカも媒介すると言われています。

【主な症状】

潜伏期間は、2 日から 15 日で、突然の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹などがみられます。

多くの場合、発症しても一週間程度で改善する予後良好な感染症ですが、まれに重症化して出血やショックを引き起こすデング出血熱やデング症候群に移行することがあります。蚊に刺されて、発熱等の症状がある場合は、かかりつけの医療機関などにご相談ください。

【治療】

特異的な治療法はなく、対症療法が主体です。

現在のところ有効な抗ウイルス薬はありません。

【予防法】

ヒトスジシマカの活動は5月中旬から10月下旬で、青森県以南に広く分布しています。

（成虫対策）

成虫は、民家の庭、公園、墓地などに住み朝方から夕方にかけて吸血します。屋内への蚊の侵入を防ぐことや屋外では皮膚の露出を避け、忌避剤の使用が効果的です。

（幼虫対策）

住宅周辺の幼虫発生源(水溜り)をなくすことも重要です。雨水マス、植木鉢やプランターの水の受け皿等に水がたまらないようにします。

連絡および問い合わせ先

倉敷市保健所保健課感染症係

電話 086-434-9810